



ふるさと納税の活用状況

令和2年度において、ふるさと納税を活用した事業をご紹介します。

なお、上毛町では、主に子育て支援や子どもの教育に関する事業に重点的に活用しています。

事業名 ふるさと納税充当額

●外灯LED化推進事業 3,000千円
町内に設置している外灯(約1,500基)のLED化を進めています。蛍光灯よりも明るく、球切れの頻度も大幅に減少します。

●コンビニ収納システム導入事業 10,000千円
徴税や保育料などの支払いが、コンビニエンスストアなどで可能となりました。

●南吉富放課後児童クラブ館新設事業 196,000千円
増加傾向にある入所希望に対応するため、放課後児童クラブ館を新設しました。

●牛頭天王公園屋外トイレ新設事業 49,000千円
老朽化したトイレの新設及びエントランスを整備しました。

●南吉富小学校運動場等改修事業 41,000千円
運動場の排水などの改善、駐車場及び学校農園を整備しました。

●遊具撤去新設事業(南吉富小学校) 4,000千円
児童が安心・安全に使用できるよう遊具を更新しました。

●ICT活用事業 16,000千円
新学習指導要領に対応するため、小中学校におけるICT環境を整備しました。

●大ノ瀬官衙遺跡活用事業 25,000千円
大ノ瀬官衙遺跡周辺の花公園を整備しました。

●体育館建設事業(実施設計) 75,000千円
老朽化した体育館を解体し、コミュニティ型の新体育館を建設します。



▲ICT活用事業



▲放課後児童クラブ館新設事業

ふるさと納税

故郷やがんばっている自治体を応援したい！

全国からたくさんの支援が届いています。

上毛町では、国の基準に基づく指定を受け、ふるさと納税(寄附金)の募集を行っており、毎年、日本全国の皆様からたくさんのご支援を頂いております。寄附をいただきました皆様へは、地域の魅力を感じていただけるよう、お礼として町や県の特産品をお届けし、大変ご好評をいただいております。

今後も、ふるさと納税事業の推進に努め、日本全国に地域の魅力を発信していくとともに、子育て支援や教育など、様々な分野において寄附金を活用させていただくことにより、定住人口や交流人口の増加に繋げていけるよう取り組んでまいります。

ふるさと納税の状況

過去5年間のふるさと納税の受入金額は以下のとおりです。なお、令和元年度に、返礼品(地場産品)などの内容について、国が示した基準に基づき、抜本的な見直しを実施しています。

●平成28年度	88,080,000円	(6,606件)
●平成29年度	1,205,860,000円	(111,387件)
●平成30年度	3,701,572,731円	(326,938件)
----- 国の基準による見直し -----		
●令和元年度	58,986,000円	(3,801件)
●令和2年度	352,226,500円	(30,744件)

基金の状況

寄附金から必要な経費を差し引いた残額は、「上毛町ふるさと応援基金」として積み立てられ、必要に応じて各種事業に充当されます。

●基金積立総額(令和3年10月末時点)	1,746,000,000円
(うち令和2年度分)	162,000,000円
●基金残高 (令和3年10月末時点)	879,529,975円

町長就任のご挨拶

坪根 秀介

まず以て先般10月31日の町長選に於いて、多くの町民の皆様のご支援・ご支持を賜り無投票の榮に浴し、11月13日より町政3期目の舵取りを担うことと成りましたことをご報告致します。また、国政に於いても同日投票の衆議院選が行われましたが、ともに直前まで緊急事態宣言が出される中で、過酷な状況であり、今国民にとって何が一番大切なのかを問われた選挙であったと思います。

行政として2年に及ぶコロナ禍で学んだことは、国よりも地方が動かなければスピード感はないという事、そして住民誰も見えない敵と懸命に戦っている時に、政治が何もせず傍観するのではなく、一歩先を見据えて可能な限り行動すべきだということです。

平時であれ、緊急事態であれ日頃から未来に備え行動しなければ、想定外を想定することができないことを改めて認識させられたところです。このことを肝に銘じ、本町も戦略を駆使して『九州一輝く町』の礎を築いてまいります。「子どもたちが夢をもつて未来に輝くまち」、「高齢者が元気で生きがいを持ち輝くまち」、「働く世代に活力がありしっかりと稼ぎ輝くまち」を叶えられる持続可能な社会を実現してまいります。

町民の皆様には、今後とも町政に暖かいご理解とご協力を賜ります様よろしくお願い致します。

師走に入り、寒気厳しき折柄皆様にはくれぐれもご自愛ください。

